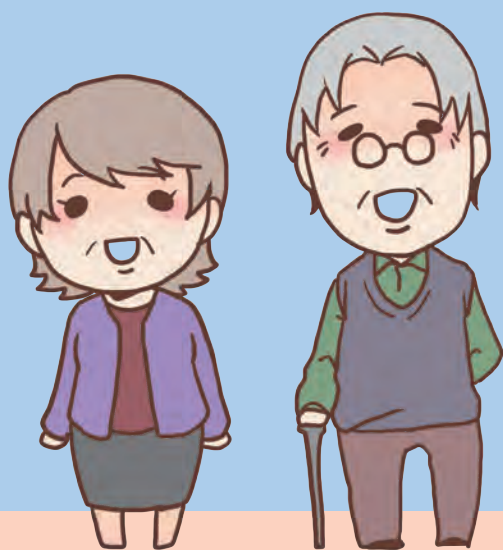




ますます

知って得する マネープラン

第20版



公益財団法人
富士社会教育センター

はじめに <これからの時代のマネープラン>

時代の変化が厳しい中で、マネープランが何故、必要なのでしょうか？。

「10年先どころか、5年先もわからない状況下の中で、20年先や30年先の老後のマネーのことを考えてもあまり意味がないのでは？」という声をよく聞きます。

答えは、先が見えない時代だからこそ、マネープランが必要なのです。

先が見えない不確実な時代だからこそ、何が起こっても対応できる危機管理としての計画性と羅針盤となる大きな方向性が必要なのです。

また、情報化社会とやらで、いろいろな情報が交差して何を選択していいのかわからない時代で、自分にとって何が必要なのかを明確にして、考えることも大切です。

将来のことを考えるといろいろな不安が現実化してきます。

その不安の第一は、雇用や仕事に関する不安です。今働いている会社や職場は将来とも大丈夫だろうか？地球環境の厳しい現状の中で、またグローバルな時代のなかにあつて、あるいは産業構造の変化の中で、会社は生き残りをかけた様々な取り組みをしています。

厳しい時代に対応するための厳しい会社の施策に対して、自分のキャリア開発は十分でしょうか？そのキャリアを開発するためには何をすればいいのでしょうか？

不安の第二は、自由主義とか市場原理主義とやらの考えがだんだん主流になって、何でも自己責任が叫ばれ、あらゆる規制を取り払って自由競争にすれば、この世の中すべてうまくいくのだそうです。その立場から言うと、福祉がこの世のあらゆる罪惡の諸惡の根源だそうです。そして、老後の生活や医療も介護もすべて自助努力で済まそうとする世の中にしようとする人たちもいます。私達は勤労者に対する福祉の後戻りは許さない取り組みをしなければなりません、万一のことも考えた自らの生活防衛も考えておく必要もあります。

不安の第三は、財政赤字や超高齢化・少子社会になり、その対応として、日本の社会構造を改革し、福祉を始めとするさまざまな制度や政策を変更しようとしています、それにより老後の生活設計の中心である年金や医療、老後の介護政策が大きく変わろうとしていることです。私達はそれぞれの制度の変化をも熟知していく必要があります。

私達は、豊かな人生を創るために次の三つを実践しなければなりません。

第一は、自助努力です。第二は、相互扶助活動です。第三は、政策制度の改善活動です。このライフプランは、その第一の取り組みである「自助努力の取り組み」の一環としての範囲です。安心できるマネープランを是非この機会に考えて見ましょう。

そして、相互扶助活動や政策・制度の分野とも連携して、自分たちの生活を向上させていかなければなりません。

このような観点に立って、これからの人生設計の中の重要な位置をしめる「マネープラン」を検討して、豊かな人生を設計されることを期待します。

はじめに	1
1. マネーに関する基本	5
● ライフプランを考える上でのポイントは	5
● これからの時代にマッチしたマネープランのポイントは	5
● ライフプランを考える上での必要資金のポイントは	5
● 上手な資産運用・資産形成のポイントは	6
2. こんなときにはハウ・マッチ.....	7
● 結婚費用はどれくらい	7
● 親の負担（援助）はどれくらい	8
● 妊娠・出産の費用はどれくらい	8
● 子供にかかるイベント費用は	8
● 教育費用はどれくらい	9
● マイホームにかかる費用は	10
● マイカーにかかる費用は	11
● セカンド・ライフの費用は	11
● 記念イベントにかかる費用は	12
3. 知っておきたいマネーの知識	13
(1) これからの時代を乗り切る家計の知恵	13
● 教育資金の準備は	13
(2) 知って得する保険の知識	14
● 生命保険の見直しのポイントは	14
● 年代にあったかしこい保険のポイントは	14
● 生命保険の保障額はいくらが最適	15
● 生命保険の選び方	16
● 生命保険の種類にはどんなものがある	16
● 定期付終身保険とはどんなもの	17
● 保険料の支払い総額はどれくらい	17
● 生命保険の見直しで大切なこと	18
● 全労済の生命共済には満期金があるか	18
● 医療保険の加入のポイントは	18
● 火災保険と地震保険について教えて下さい	19
(3) 知って得するマイホームプラン	20
● 頭金の上手なづくり方は	20
● 上手な住宅ローンの選び方は	20
● 住宅ローンの返済の仕組みは	21

● 住宅ローンの上手な借り換えのポイントは	22
● 中抜き返済とは	22
● その他の知っておきたいポイントは	22
● 住宅税制の改正のポイント	22
(4) 知って得する個人年金	23
● 個人年金について	23
● 個人年金の受取型	23
● 変額型の年金	24
● 簡保の年金	24
● 財形年金	24
● 外貨建て個人年金	25
4. セカンドライフのマネーの知識	26
(1) ここがポイント年金の知識	26
● 年金の仕組みは	26
● わたしの年金額はいくら	27
● 年金は何歳からもらえるのか	31
● サラリーマンの公的年金額の目安は	32
● パートタイマーさんの厚生年金はどうか	33
● 遺族基礎年金について	33
● 遺族厚生年金について	34
● 障害年金について	35
● 中高齢の加算について	36
● 在職老齢年金について	36
● 高年齢雇用継続給付	38
● 60歳以降の厚生年金・雇用保険 全体図	39
● 再雇用の働き方と賃金	39
● 離婚と年金分割	40
(2) セカンドライフの健康保険利用法	41
● 医療費の自己負担は	41
● 退職後の公的医療保険は	41
● 70歳以上の高齢者の自己負担	42
● 70歳未満の高額医療費の自己負担	42
● 高額医療・高額介護合算療養費の自己負担	42
● 任意継続と国民健康保険の違い	43
● 介護保険	43
● 労災保険	44
● 雇用保険	44
(3) 定年退職日からの1ヶ月の行動	45
● 退職時に返却するもの	45
● 退職時に会社から返却してもらう書類	45
● 退職後10日後に離職票	45
● ハローワークへ求職の申し込み	45
● 失業認定日	45

● 失業期間中のアルバイト	46
● 公共職業訓練はお得	46
● 国民年金の手続は 14 日以内に	46
● 退職後 20 日以内に健康保険の申し込み	46
● 退職の翌年は確定申告	46
● 年金の申請	46
● 忘れたころに来る住民税	47
(4) ここがポイント、セカンドライフの資金計画	48
● セカンドライフのポイントは	48
● セカンドライフの資金計画のポイントは	48
● 退職金には税金がかかるの	50
● 年金にも税金がかかるの	51
● 相続税の計算（例）	52
5. これからの時代を乗り切るマネーの知識	53
● 上手な資金運用・資産形成のポイントは	53
● 知っておいた方がいい金融商品は	53
● 金利が高いとき、低いとき何が有利	53
● 各種金融商品のポイントは	54
● 現在のお金を倍にする利率と期間は	56
● 年 6 万円ずつ積み立てると（30 年後は？）	56
● ローンをしたときの返済額（退職一時金を年金で受取る場合）は	57
● 葬儀後の手続き	58
● 「ねんきん定期便」の見方	60

1. マネーに関する基本



Q 1. ライフプランを考える上でのポイントは

A ライフプランを生活の8つの側面からみてみましょう

- ① 仕事については、自己の職業能力を高めていくこと。
- ② 余暇については、もうひとりの自分が大切。
- ③ 経済設計については資産管理計画が大切。
- ④ 家庭生活については家事や育児や介護の能力が大切。
- ⑤ 地域生活については積極的な参加と交流が大切。
- ⑥ 人間関係については職場外の交流や異業種交流など多様なネットワークが大切。
- ⑦ 健康管理については健康のチェックと実践的な健康生活が大切。
- ⑧ 自己開発については感動的体験や創造的なチャンスを持つことが大切。

Q 2. これからの時代にマッチしたマネープランのポイントは

A 借金をしないことが、大原則です。その他のポイントは

- ① 収入と必要支出（住宅費・教育費・食費等）のバランスを考慮すること。
- ② 不必要な借入、ローン（カードローン等）は避けること。
- ③ 大きな支出（住宅の取得・入学金）、高額商品（自動車等）の購入は早めの計画を。
- ④ 何かのため（入院・事故等）のゆとり資金（現金）の確保しておくこと。
- ⑤ 将来のイベント（子供の結婚・家の増改築・両親との同居等）を考慮した資金計画を。
- ⑥ 各種保険（生保など）は貯蓄と保障を分け、必要に合わせて見直しすること。

Q 3. ライフプランを考える上での必要資金のポイントは

A 第一はイベント資金

- ① 住宅購入やリフォームのための資金はしっかり計画を立ててから。
- ② 子供の教育資金と結婚援助資金は内容を明確にすることが大切。
- ③ 万一の場合の準備として各種保険の選択能力が大切。
- ④ 公的年金の補完のためのセカンドライフ資金の準備が大切。
- ⑤ 趣味や資格取得のための資金やマイカー資金の準備も大切。
- ⑥ 夫婦の記念イベント資金や両親の介護・葬儀費資金の準備も忘れずに。
- ⑦ 相続のための相続税の資金も必要かも。
- ⑧ 固定資産税や自動車税も忘れずに。

4. 上手な資産運用・資産形成のポイントは

A 無理なお金で投資はしない。ポイントとしては

- ① 自己資金・運用資金の3つの性格を確認すること。
 - ・絶対になくなっては、いけないお金
 - ・日常生活で必要なお金
 - ・なくなっても家族に負担にならないお金
- ② 安全性・リスク（危険度）を確認すること。
- ③ 資金の流動性（金融商品の使い易さ）を確認すること。
- ④ 運用期間と利回り（利率＋運用期間＋運用商品の性質）を確認すること。
- ⑤ 固定金利商品と変動金利商品の違いを確認すること。

又 毛

2. こんなときにはハウ・マッチ



Q 1. 結婚費用はいくらかかる？

A 婚約から新婚生活までの総費用

結納・婚約から新婚旅行までにかかった費用

単位：万円

	項目別平均額（全国）
結納・会場費	18.3
両家の顔合わせ・会場費	6.2
婚約指輪	35.4
結婚指輪（2人分）	24.1
挙式・披露宴・披露パーティ総額	354.8
新婚旅行	60.8
新婚旅行土産	10.9
結納・婚約から新婚旅行までにかかった費用 総額	463.3

資料：リクルートブライダル総研調べ（ゼクシィ結婚トレンド調査 2017）

（注）各項目の費用は、その費用が発生した人の平均金額であり、各項目の合計は「結納・婚約から新婚旅行までにかかった費用 総額」とは一致しない。

新生活準備のためにかかった費用

単位：万円

	項目別平均値（全国）
家具・インテリアの購入総額	31.6
家電製品の購入総額	33.9
新生活準備のためにかかった費用 総額	56.3

資料：リクルートブライダル総研調べ（新婚生活実態調査 2017）

（注）各項目の費用は、その費用が発生した人の平均金額であり、各項目の合計は「新生活準備のためにかかった費用 総額」とは一致しない。

Q 2. 親の負担（親からの援助）はどれくらい？

A 婚約から新婚生活までの総費用

結婚資金

単位：万円

結婚費用のための夫婦の貯金総額 (貯金をしていた人の全国平均)	294.2
親・親族からの援助総額 (全国平均)	182.0
ご祝儀 (全国平均)	230.7

資料：リクルートブライダル総研「ゼクシイ結婚トレンド調査 2017」調べ

Q 3. 妊娠・出産費用はどれくらい？

妊娠・出産費用の内訳

1. 健診費用：妊婦健診は平均 10 回以上になり、合計すると約 10 万円。
 2. マタニティ用品の費用：5 万円前後。
 3. 出産準備用品の費用：約 10 万円。
 4. 出産費用：30 万円～70 万円。病院や部屋のタイプなどによって代わります。
- ※ 1～4 合計で、50～100 万円のお金が必要です。

① 出産育児一時金 42 万円 (産科医療補償制度に加入する医療機関等において出産した場合。それ以外の場合は 39 万円)

② 出産手当金 出産のため会社を休む産前 42 日 & 産後 56 日

標準報酬月額平均額 ÷ 30 日 × 2 / 3

③ 育児休業手当 原則 1 年間

賃金日額 × 支給日数 × 67% (育児休業開始から 6 か月経過後は 50%) 相当額

※ ① は全員 ② は健康保険料を払っている人 ③ は雇用保険料を払っている人

Q 4. 子供にかかるイベント費用は？

《行事費用の目安》

お宮参り	赤ちゃんの健康と幸せを祈願して神社や先祖にお参りする儀式。初穂料、それにお祝い着や写真代が主な出費ですが、最近では形にこだわらず、お金をかけずに済ませることも。	0 ～ 35,000 円程度
お食初め	生後 100 日目に、赤ちゃんが丈夫で健康に育つようにとの願いを込めて行われる行事。	0 ～ 30,000 円程度
初節句	赤ちゃんが初めて迎える節句のこと。最近では、両親だけを招いて極内輪でお祝いし、人形や鯉のぼりは贈物としてどちらかの実家からということが多い。	0 ～ 30,000 円程度
七五三	お祝い事に使う数字にちなんで、子どもの健康と幸せを祈願する行事。男の子は 3 歳と 5 歳、女の子は 3 歳と 7 歳のときに行うのが一般的。晴着一式が主な費用。	0 ～ 100,000 円程度
内祝い	本来は家の中のお祝い事を周囲におすそ分けするという意味があったが、最近では、出産祝いをいただいた方にお返しとして贈るのが一般的になった。お宮参り前後がタイミング。	お祝金の 1/2 ～ 1/3

* 結婚情報誌「ゼクシイ」から

4. セカンドライフのマネーの知識

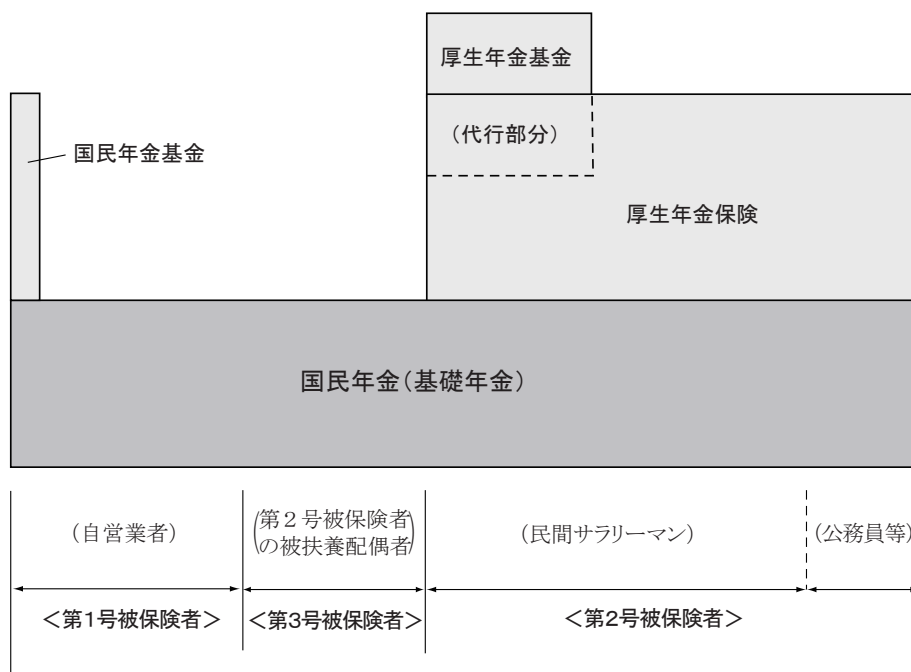
(1) ここがポイント年金の知識

Q 1. 年金の仕組みは

A 年金には、①公的年金・②企業年金・③私的年金・④障害年金・⑤遺族年金があります。

① 公的年金は、国民年金や厚生年金などほとんどの人が加入している年金です。これはセカンドライフの生活資金の基礎になるものです。

② 企業年金は、厚生年金基金など、企業が従業員の定年退職後の生活のために設けている年金制度です。



③ 私的年金は、個人の責任で加入する年金です。貯蓄的性格を持ち、労働組合や全労済などの積立年金制度や一般の年金保険・養老保険などがあります。

④ 障害者年金は、病気や怪我によって一定程度の障害を負った人に支給されます。

⑤ 遺族厚生年金は、厚生年金加入者や老齢厚生年金受給権者が死亡した場合、その遺族に支給されます。

メモ
